

海外プロジェクトの事例紹介セミナー(その1)

国際委員会 宗広 裕司 | MUNEHIRO Yuji

はじめに

国際委員会では、会員企業の国際市場展開の推進支援の一環として、2023年11月13日に「海外プロジェクトの事例紹介セミナー」を開催しました。本セミナーでは、国際委員会の委員所属企業4社が実施中の海外プロジェクトについて、プロジェクト実施各国とオンラインで繋ぎ、担当者の方に事例紹介をしていただきました。

開催形式は、オンラインでの聴講と実際に協会会議室にお越しいただくリアル開催とのハイブリッド形式で行われ、全体で88人の方に聴講していただきました。

本稿では、全体で5つの発表のうち前半の3編についての発表と質疑の概要について報告します。

1. インドネシア国中部スラウェシ州パル市 インフラ復興セクターローンのためのプロジェクト管理 及び監理コンサルタント業務

八千代エンジニアリング株式会社
プロジェクトマネージャー 村田 慎

(1) 発表概要

2018年9月28日にインドネシア国中部スラウェシ州パル市北部で発生した地震に伴う津波、液状化、地すべり等により被災したインフラの再建及び災害に強い街づくりを目的として、①灌漑水路の再建・改修、②液状化地すべりエリアの対策、③地下水モニタリングの能力開発、④18河川の改修と土砂対策、⑤沿岸浸水地域での排水システムパイロットプロジェクト、⑥パル川下流の津波対策、⑦集団移転地における洪水と土砂災害対策、を推進するためのコンサルティングサービスを行うものでした。

※円借款事業（復興セクターローン）



写真1 発表会場の概要

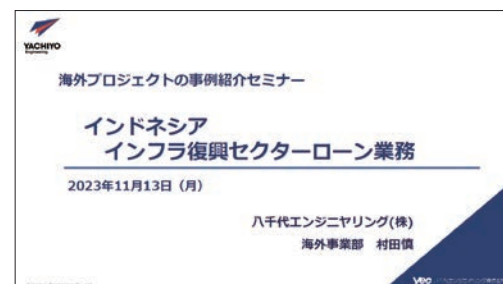


図1 村田氏の発表資料（抜粋）

※工期 2022年1月11日～2023年11月30日

(2) 質疑応答

Q1: 業務で使用するのは英語ですか？ 現地語（インドネシア語）の必要性は？

A: コミュニケーションは英語でとっています。

Q2: 災害復興のプロジェクトは時間とともに変化する現場の状況への対応が難しいという特徴があると思いますが、村田さんが直面した困難や対処について教えてください。

A: 構成サブプロジェクトの数が当初より非常に増え、内容の追加や条件の変更もあり、それぞれに成果の提出が求められるため業務をスピードアップする必要が



図2 野村氏の発表資料（抜粋）

あり対応が難しかったです。

Q3: インドネシアは日本以上に経済力が伸びている状況ですが、今後も現地プロジェクトでの利益が続いていく見込みはありますか？

A: 火山や首都移転などに民間開発が求められる状況にあり、まだ砂防や品質加工の維持管理などに日本の技術を移転できる範囲はあります。

2. マダガスカル国アロチャ・マングル県ムラマンガ市 国道2号線マングル橋梁及びアンツァパザナ橋梁改良計画 (アンタナナリボ - トアマシナ)

株式会社長大 主任技師 野村 幸司

(1) 発表概要

マダガスカルの最重要物流幹線である国道2号線のうち最後の単線箇所であり、かつ老朽化が進行するマングル橋（L=102m）とアンツァパザナ橋（L=30m）の架け替えと、そのアクセス道路の整備を行うことにより、同区間における輸送能力の改善を図り、もって物流の活性化に寄与することを目的とする事業でした。

供与対象施設である①マングル橋（3径間連続PC箱桁橋、L=102m、2車線）、②アンツァパザナ橋（単純PC中空床板橋、L=30m、2車線）、および③アクセス道路（合計延長 800m）の整備にかかるコンサルティングサービスです。

※JICA 無償資金協力（G/A）

※工期 2021年10月1日～2023年12月15日

(2) 質疑応答

Q: FIDIC 契約約款等のルールはどのようにして学ばれたのですか？

A: 現地の契約書がFIDICの約款に基づいて結ばれているため、必然的に現地で業務する際に一つひとつ内容を確認することによって学んでいきました。



図3 佐川氏の発表資料（抜粋）

3. カンボジア国シハヌークビル市 シハヌークビル港コンテナターミナル経営・技術向上 プロジェクト他

日本工営株式会社 技師 佐川 奈津子

(1) 発表概要

カンボジア国シハヌークビル港において、同港の各港湾施設の全体最適化及び一体的運用並びに各施設の運用に係る能力強化により PAS の港湾及び SEZ の運営・管理能力向上を図り、同港の貨物取扱能力の強化を通じて、直接投資の流入拡大、雇用創出等、カンボジア経済の発展に寄与することを目的として実施する事業でした。本業務の他、フィリピン・円借款事業の準備調査等の概要、担当専門家としての役割や現地の生活などについて紹介いただきました。

※円借款事業（有償勘定技術支援）

※工期 2022年5月6日～2026年4月30日

(2) 質疑応答

Q: 途上国の業務や生活において、女性であるが故の支障はありませんでしたか？

A: むしろ気を使っていたことが多く支障ありませんが、就業先のお国柄上、リーダーとして業務を行うのに現地からの抵抗があるという話を女性技術者から聞いたことはあります。

おわりに

本稿では、「海外プロジェクトの事例紹介セミナー」の第1～3編における発表概要と質疑応答を報告しました。発表者はプロジェクトの現場よりオンラインで参加いただきましたが、懸念された通信環境の問題も発生することなく、現地の臨場感が伝わってくるものとなりました。

次号では、後半の2編と聴講者によるアンケート結果の概要について報告する予定です。